



甲子園

ちょうど1ヶ月前に甲子園に夏の高校野球を観戦に行っていました。その日は、花巻東高校の佐々木選手に注目も集まっており、プロ野球のスカウトなどもたくさん甲子園球場にきていました。

私は、毎年甲子園球場に高校野球観戦に行っています。附属坂出中学校での勤務時代は、丸亀高校が出場した際にバスを借りて野球部員たちと教え子の応援に行きました。また、高松商業の長尾監督と附属坂出中学校で一緒に勤めていたこともあり、高松商業が出場したときは、仲間たちと応援に行きました。最近では、チケットの購入もネットでの購入となったので休みのとれる日のチケットを発売と同時に購入しています。その日にどの学校が対戦するかはわかりませんが、楽しみにしています。

なぜ甲子園に毎年観戦に行くのか？甲子園には毎年新しいドラマがあります。筋書きのないドラマや全力のプレーにはいつも感動します。アルプス席の応援団の吹奏楽の音の大きさや大きな声援に迫力を感じます。近くの席に座った人と野球について会話するのも楽しみです。

- 英明高校の百々選手（詫間中学校卒業生）
- 花巻東高校の監督が（父親）選手が（子ども）
- 鳥栖工業の女子マネージャー
- 鳥栖工業の兄弟（1年生と3年生）バッテリー
- 大垣日大の監督が（祖父）選手が（孫）
- 雨の影響で応援団が間に合わなかった専大松戸
- 仙台育英応援団が専大松戸の応援歌を友情演奏
- 長髪チームの決勝戦（仙台育英 vs 慶応）
- 自分たちで考えるエンジョイベースボールで慶応優勝



上に紹介したのは、私が、気になった今年のドラマの一部です。なかでも慶応高校の優勝は、みなさんも少しは話を聞いたと思います。みなさんに伝えたいことはたくさんあるのですが、「慶應義塾高等学校野球部 部訓」の中から一部を紹介します。これが全国優勝できるチームの日本一の心構えです。

- ・日本一になろう。日本一になりたいと思わないものはなれない。
- ・Enjoy Baseball（スポーツは明るいもの、楽しいもの）
- ・礼儀正しくあれ。どんな人に対しても、どんな場にあっても、通用するのは人間性。一人一人の人間性が慶應義塾の評価を決める。挨拶は人との最初の勝負。
- ・自分一人で生きていると思うな。自分一人で野球をやっていると思うな。周りの者に感謝の気持ちを持って。感謝の気持ちは「ありがとう」世の中にそれほど以心伝心はない。言葉は使ってはじめて生きる。
- ・闘争心を持って。ただし相手を口で罵倒するような事はやめよう。相手の好プレーには拍手を送ろう。
- ・時間厳守。組織が成り立つ、人の信頼を勝ち取る最大の武器。
- ・凡人は習慣で1日を送る。天才はその日1日が生涯である。毎日が本番。大会前だけ盛り上げて全国制覇ができるか。
- ・グラウンド、用具は大事に。最後に神様が微笑んでくれる。
- ・文武両道。カッコイイ生き方をしたいな。
- ・エンドレス（いつまでもやってやろうじゃないか）

9月3日(日)の第2回PTA除草作業へのご協力ありがとうございました。美しい環境で2学期のスタートがきれました。